

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 35
2024. 5.17

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
藤樹書院・良知館内
電話・FAX 0740 (32) 4156
<http://takashima-tojukai.com/>

藤樹人間学塾

十二年のあゆみ

高島藤樹会 会長 田中 清行

藤樹人間学塾
を始めて十二年
となったのでそ
のあゆみを振り
返ってみたい。

二〇〇八年藤

樹生誕四百年祭で、映画や講演会、コンサートなど華々しいイベントが繰り広げられた。高島藤樹会も同時に発足したが、私は、祭りの盛り上がりが一過性で終わることを危惧し久保田暁一先生と相談して、藤樹先生の教えを学ぶ学習会を立ち上げた。これが藤樹人間学塾の始まりである。

二〇一一年、最初は廣瀬童心先生らに基調講話をお願いした。その後私が講師を務めるにあたり、私でいいのだろうか、と自問したとき、西信一郎先生が『藤樹学講話』で、「大学でも中庸でも藤樹先生の解釈をみると結局同じことを言っている。どこを見てもただ一筋大道というものをいつでも説いておられる」という言葉を得て、私なりに藤樹先生の大道を探究してそれに基づいて話をす

ればよいのではと思った。

二〇一二年からは先生の著作『翁問答』、二〇一五年からは『大学解』、二〇一六年からは『孝経啓蒙』、二〇一八年からは『中庸解』、そして二〇二二年からは『鑑草』を道友と学んできた。テキストと現代語訳そして人間の生き方に関係する資料も加えて説明し、三十分はフリートークキングの時間をとった。最初は五、六人だった仲間が徐々に増え、現在は十人程度のメンバーで楽しく学んでいる。

紙面の都合で各著作の内容を述べられないが、『翁問答』で、正真の学問とは、志の根本に明德を明らかにすることを据え、人としての心を師とし、物事に対応する日常生活の出来事で明德を磨いていくことだ、とある。これを指針としている。

さて、藤樹先生の大道の教えとは何か。私は、「孝の思想」だと考える。これを分かり易く言えば、自分には父母があり、父母にはその両親があり、それを遡っていくと約三千万年前の人類の誕生、そして約三十八億年前の生命の誕生に至り、その前は、約四十六億年前の太陽の誕生、地球の誕生に至る。その前は、約百三十七億年前の宇宙の誕生に行き着く。その前かというと宇宙を造

り出した大宇宙、太虚に至る。自分はその大宇宙と親子関係の延長線上でつながっている。生命の誕生から誰かが欠けても自分は存在しない。それは隣人も動物も虫も植物も同じ関係であり、兄弟姉妹のような関係である。だから親に孝行するように大宇宙を敬えば、大宇宙は親が自分を愛してくれるように愛してくださる。

宇宙から自分までは目に見える二元相對の世界である。一方、大宇宙は目に見えない一元絶対の世界である。大宇宙は目に見えないが厳然として存在する。それは私たちが生まれてから休みなく心臓を動かしているにたっていることから知ることができる。だから隣人や他の生物とは兄弟姉妹のように仲良くしなければならぬ。

今、世界では我欲から戦争や紛争が起こり危機に瀕している。国内でも争いごとが起こっている。また資本主義の利益追求が行き過ぎて富の争奪や偏在が起こっている。

こうした中、私たちは藤樹先生の温かくて深い、「孝の思想」を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広めるべく、これからも毎月、小さな灯を点し続けていこうと考えている。